

サビエル生誕五百年

藤屋 侃士  
(下松市幸ヶ丘)

巡礼の道

409

アフタヌーンティー

英国ツアー一人旅 ⑥

七十年以上生きている 持つていないので、いや  
のに、自分が余りに無知 になることが多い。見聞  
かっついい加減な知識しか を広める旅が、自分の無



2014/06/08

食器もワイルドストロベリーのウェッジウッド

知を思い知らされること  
になる。老いても好奇心  
を持ち、挑戦して生きよ  
うと読書を心掛けるが、  
一ページ読めばもう目が  
疲れてくる。この年にな  
って「少年老い易く学成  
り難し」と自覚してもす  
べて手遅れ。

例えば、我が家には妻  
や娘が好きで買い求めた  
陶磁器のカップがたくさ  
んある。自分の家にある  
ものですら、その「ポー  
ンチャイナ」を「中  
国産の陶磁器」と最  
近まで思っていた。

ポーンは「生まれ  
る」ではなく「骨」。  
十七世紀ヨーロッパ  
の貴族たちが愛用し  
たのは中国陶磁器。  
英国人が自分の国で  
製造しようとしたが、  
中国陶磁器に使われ  
る白色粘土の入手が  
困難で、牛の骨灰を  
代用品に使って十八  
世紀に生まれたのが

「ポーンチャイナ」。その  
発祥地、イングランド中  
部のストーク・オン・ト  
レントを今回訪れた。

ここにはウェッジウッ  
ドをはじめ数多くの陶磁  
器メーカーの工場がある。  
ウェッジウッドのビジタ  
ーセンターで昼食として  
アフタヌーンティーを楽  
しみ、名品を見学した後、  
多くの参加者がアウトレ  
ットコーナーで土産品を  
買い求めた。

アフタヌーンティーと  
いえば、冬に妻と娘の三  
人でロンドンを訪ねた際、  
ナショナル・ギャラリー  
の本館入り口のカフェで  
初めて食べた。日本の飲  
料メーカーの「午後の紅  
茶」で焼酎を割って飲ん  
でいたので、アフタヌー  
ンティーは午後三時ごろ  
のお茶の時間に紅茶を飲  
むことと本気で思ってい  
た。

重ねのトレイに、  
下のプレートか  
ら順番にサンド  
イッチ、スコ  
ン、菓子がのせ  
てあり、粋なポ  
ーンチャイナの  
器で紅茶を飲み  
ながら会話を楽  
しむ。妻と娘は  
紅茶はフォート  
ナムメイソンが  
一番香りが良い  
と上機嫌。どう  
みても、これは  
女性向きの食文化と思え  
る。

帰国してこっそり調べ  
ると、想像通り、一八四  
〇年ごろ、アンナ・マリ  
アという侯爵夫人が女性  
向けの社交の場として始  
めたものに端を発してい  
るらしい。単なる軽食で  
はなく、室内装飾や食器、  
花、マナーなどが大切に  
された。貴族の婦人たちは  
そのための館まで建て  
たという。庭はイングリ



2014/06/08

訪れたウェッジウッド・ビジターセンター

ッシュ・ガーデンだつた  
と想像する。

日本の茶道に通じるも  
のがある。なぜ英国でポ  
ーンチャイナが発明され  
たか、このアフタヌー  
ンティーの食文化に關係が  
あると思われる。今まで  
にこんな知識が少しでも  
あつたら人生はもっと豊  
かになつていたらと悔やむ  
遅まきながら我が家のポ  
ーンチャイナに関心を持  
ち始めたのである。